

北海道での 地熱開発と その将来

地熱資源は、純国産の自然エネルギーであり、環境にも優しい資源です。現在、国内で発電として使われている資源量約50万KWであり、潜在資源量の2%に過ぎず、今後大きな発展が期待されています。特に、北海道は多くの火山や地下が高温な地域があるにもかかわらず、地熱発電所は1か所であり、今後、飛躍的に開発がすすめられる地域であります。本フォーラムでは、現在調査が進んでいる地域での成果や問題点を述べていただき、北海道での地熱開発を促進する道を探るとともに、巨大な資源量が推定される地熱資源として研究が始められている次世代地熱資源についても将来構想を報告していただき、総合的な工学としての地熱技術開発についても討論します。

2016年12月22日(木)

13:30～17:30 (開場 13:00)

北海道大学 学術交流会館 2F 講堂
(札幌市北区北8条西5丁目)

参加費：無料 (但し、資料代 1,000 円)

[申込み・問合せ先]

資源・素材学会北海道支部事務局 E-mail sh@eng.hokudai.ac.jp

プログラム

司会：加藤 昌治 (北海道大学)

13:30～13:35 開会挨拶 藤井 義明 (北海道大学, 資源・素材学会北海道支部長)

13:35～13:45 企画者趣旨説明 茂木 透 (北海道大学)

13:45～14:25 「北海道における地熱調査の経過と最近の動向」
高橋 徹哉 (北海道立総合研究機構地質研究所)

14:25～14:55 「武佐岳地域 調査の現状と開発への課題」
山岸 裕幸 (石油資源開発)

14:55～15:25 「阿女鱒岳地域 調査の現状と開発への課題」
後藤 弘樹 (出光興産)

15:25～15:35 休憩

15:35～16:35 「次世代地熱資源の研究開発」
浅沼 宏 (産業技術総合研究所)

16:35～16:40 会場準備

16:40～17:25 パネルディスカッション
モデレータ：茂木透(北海道大学), パネラー：講演者全員

17:25～17:30 閉会挨拶 広吉 直樹 (北海道大学, 資源・素材学会北海道副支部長)

18:00～20:00 懇親会 (北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」内
レストラン「エルム」)

主催：(一社) 資源・素材学会 北海道支部

後援：北海道大学大学院工学研究院環境循環システム部門ほか

撮影：日本重化学工業(株)花野峰行氏

